

57 八代本町一丁目商店街（熊本県八代市）

●取組みまでの経緯・実施背景

八代本町一丁目商店街は、周辺のスーパーとともに栄えてきた八代市の商業の中心地にある。しかし、平成 16 年 11 月にイオン八代 SC、平成 17 年 6 月にゆめタウンがオープンし、核であった商店街周辺のスーパーは相次いで撤退した。商店街の通行量は 3 年前と比較して約 7 割にまで減少した。

商店街では、理事長を中心に大型店対策を検討するうち、まずは商店主たちが同じ方向を目指して行動する団結力を高め、そしてその上で、物だけでなく人（商店主）も名物にすることで大型店に対抗しようと考えた。

そこで平成 16 年より“商店街を元気にすること”、“街にやってくる人を増やすこと”を目的に、商店主らが劇団「やっちろ笑店街」を結成した。その活動の輪を徐々に広めている。また、女性部「ざぼネーゼ」の活動も活発で、1 年間準備をすすめる「ひな祭り」や「おかみさんデー」（隔月開催）では、来街者のもてなしイベントを実施。劇団の PR と女性部のもてなしで、“顔の見える商店街づくり”に取り組んでいる。

●事業概要（内容）

1. 劇団「やっちろ笑店街」の取組み

店主が 1 つにまとまり、商店街に人を呼べる手段として選択したのが「お笑い劇団」で、若手店主を中心に結成された。劇の内容は、店主も名物のひとつとなれるよう八代の“八”にちなみ七福神に貧乏神（節約の神様）を加えた“八福神”のキャラクターを考え、商店街を舞台にしたストーリーとなっている。毎晩夜八時から練習を重ね、「ひな祭り」イベント初日に 1 日 3 回公演を実施。空き店舗を活用した定員 100 名の即席劇場は、毎回満員御礼となる程の人気である。生公演だけでなくいつでも上映できるよう映像制作も手がけ、子供も楽しめる内容のビデオドラマ、「パパは彦レンジャー」（平成 17 年）、「やっちろ子ども新聞社」（平成 18 年）は、東京ビデオフェスティバルで 2 年連続佳作に入賞した。ひな祭り、夏の土曜市などイベント時に上映するほか、ビデオの貸し出しも行っている。

また 2 年目から、劇団のキャラクター「八福」をブランド化したオリジナル商品の開発を始めた。手始めとして商店街のひな祭りイベントの会場で開発商品の八福茶、八福パウンドケーキ、八福大福、八福パンを個数限定で販売したところ好評だった。

2. 女性部「ざぼネーゼ」の取組み

本町一丁目から 3 丁目、および通町商店街が共同で設定している偶数月の 15 日「いちごの日 おかみさんデー」では、各商店街がそれぞれ独自の催しを行っている。本町一丁目商店街の約 20 名のおかみさんが所属する「ざぼネーゼ」は、沿線物産販売や空き店舗でのお茶接待によるおもてなしを行い、買い物客に喜ばれている。ま

集客イベント

た、2月上旬から3月中旬まで開催される「ひな祭り」では、約1年間かけて制作した手作りの雛人形、つるし飾りが各店の店頭を華やかに飾っている。休憩所となる空き店舗では20人で作りためた約1,000体の手作り千代紙人形が展示され販売も行われる。

●実施効果・今後の課題について

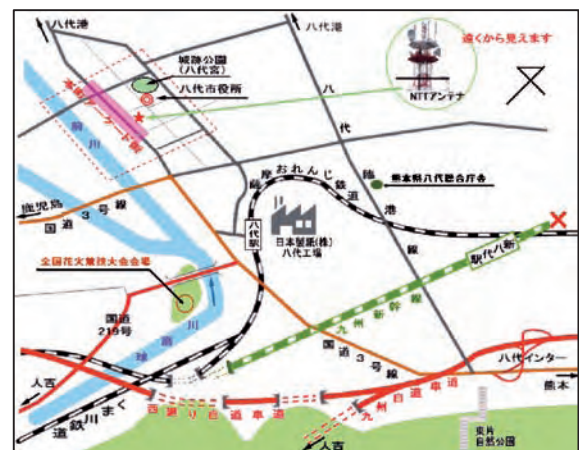
劇団「やっちろ笑店街」の活動を通して、商店主同士の結束力が非常に高まり、地域とのつながり、お客様とのつながりも密になったと感じている。アンケートでは、商店街と劇団に対する応援メッセージが多数寄せられる。多くのメディアに取り上げられたこともあり来街者との会話のきっかけとなっている。今後は劇団から派生した「八福」ブランドを活用して、常時販売できる商店街のオリジナル商品や、各個店が「八福」にちなんだ独自商品の開発を行い、さらなる集客を図っていく計画である。イベントで商店街と劇団の認知度が高まり、人が集まったところで個店の販売につなげていく計画である。

「ざぼネーゼ」の空き店舗を利用したお茶接待と楽しい会話はお客様に大変喜ばれ、特にひな祭りの展示販売は、毎年市内外から多くの人を集めている。

平成17年6月の大型店ゆめタウン出店時には、60店舗中49店舗と11店舗が空き店舗となるまで落ち込んでいた。こうした取組みの甲斐があり、新規出店希望者が増え、平成18年9月末段階で4店舗がオープンし、53店舗にまで回復した。

●商店街の概要・地図

- ・本町一丁目商店街振興組合
- ・熊本県八代市本町一丁目6-17
- ・電話：0965-32-3066
- ・商店街のタイプ：地域型商店街
- ・店舗数：53店
- ・<http://hon1.hp.infoseek.co.jp/index.html>



八代本町一丁目商店街



やっちろ笑店街の八福神



ざぼネーゼによる雛飾り